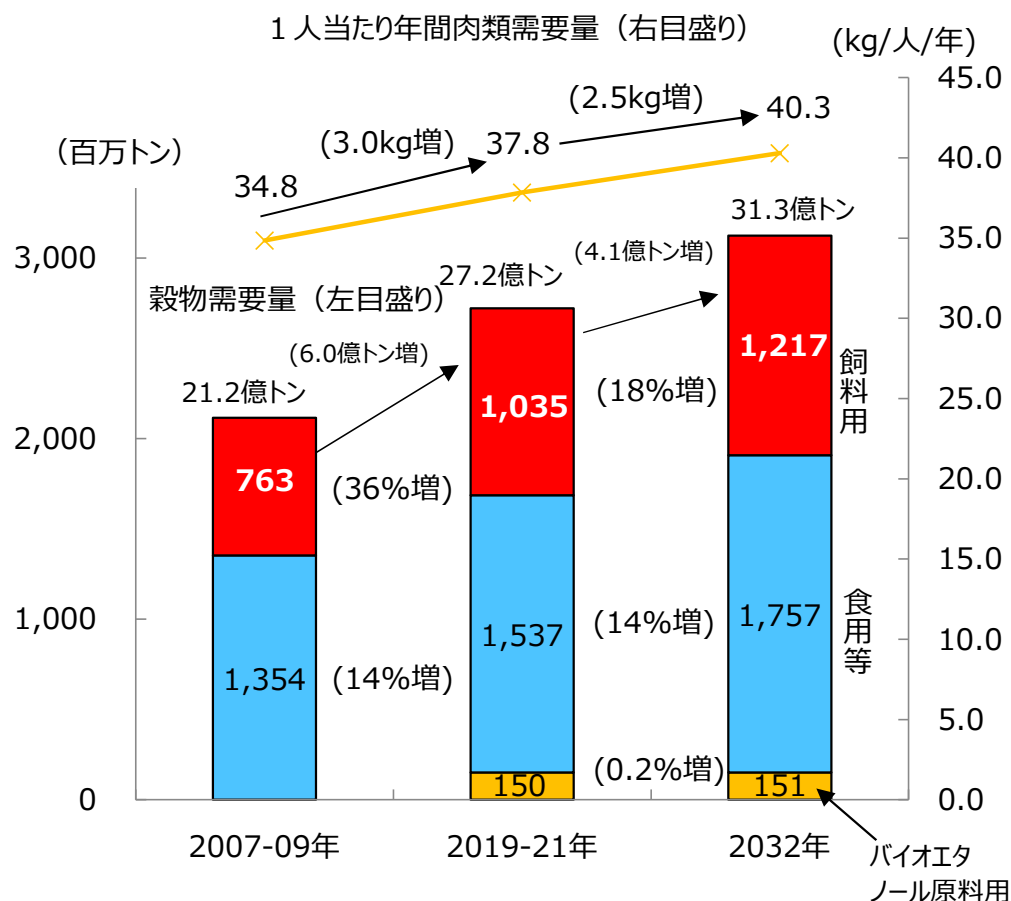


9 穀物の需給見通し：世界の穀物の消費・生産量の内訳

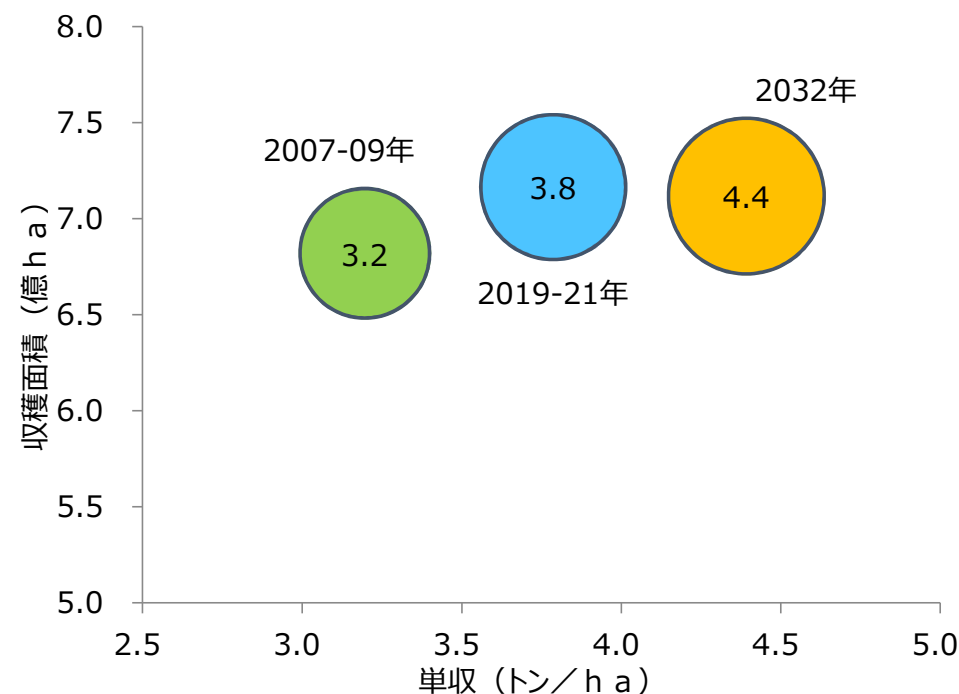
- 穀物消費量について、世界経済は、COVID-19を経て回復に向かう途上で、ウクライナ侵攻による多方面への影響から、下押し圧力を受ける中で、将来的に中国の人口減少や成長の鈍化があるものの新興国及び途上国を中心として、所得の向上を背景とした肉類消費量の増加に伴った飼料用需要の増加と、伸び率が鈍化しつつも総人口の増加を背景に食用消費は増加する。
- 穀物生産量について、全ての穀物の収穫面積がやや減少傾向となる中で、単収の伸びはこれまでに比べて鈍化するものの、単収の増加が寄与して、生産量は増加する見込み。

① 用途別穀物消費量と1人当たり年間肉類消費量
(世界合計)



② 穀物の生産量、単収、収穫面積 (世界合計)

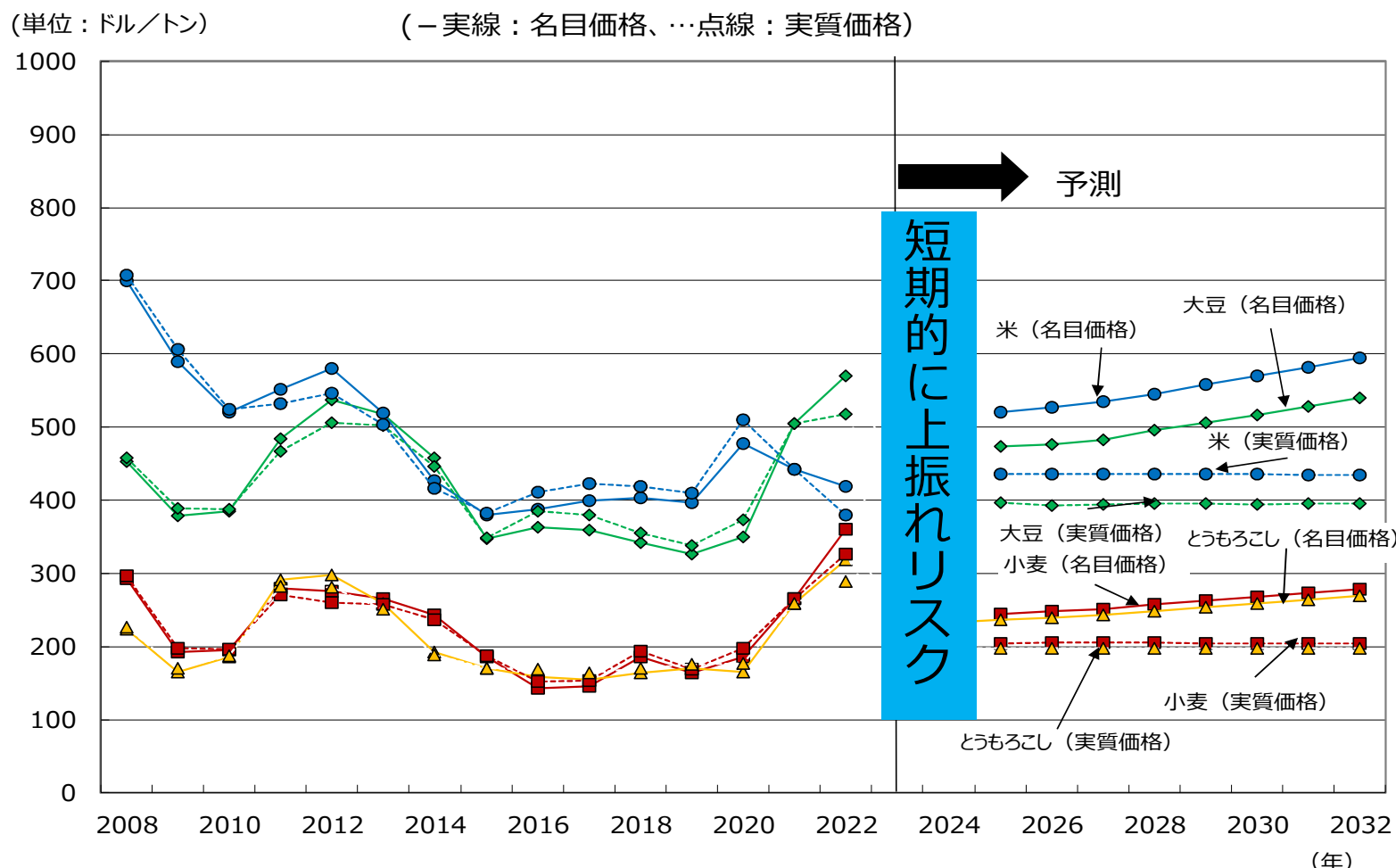
世界合計	2007-09年 (I)	2019-21年 (II)	2032年 (III)	増加率 (II)/(I)	増加率 (III)/(II)
収穫面積 (億ha)	6.8	7.2	7.1	5.1%	-0.7%
単収 (トン/ha)	3.2	3.8	4.4	18.5%	16.0%
生産量 (百万トン)	2,180	2,713	3,126	24.5%	15.2%



注：数字は単収 (トン/ha)、円の大きさが生産量。
資料：2032年における世界の食料需給見通し

10 穀物・畜産物等の需給見通し：穀物及び大豆の国際価格見通し

- 穀物及び大豆の国際価格は、実質価格ベースで、ウクライナ侵攻による多方面への影響等から下押し圧力が強まり、将来の経済成長の鈍化見通しから食料需要の伸びの鈍化を強めつつ、弱含む傾向となる見通し。ただし、短期的に強まるインフレ圧力やウクライナ情勢を背景に上振れリスクが残る。
- インフレーション等の物価上昇を勘案すると、これらの名目価格は上昇する見込み。
(これら国際価格の推移に対して、日本国内の円貨ベースは円安傾向にあり、輸入価格も為替動向によって上昇のリスク)



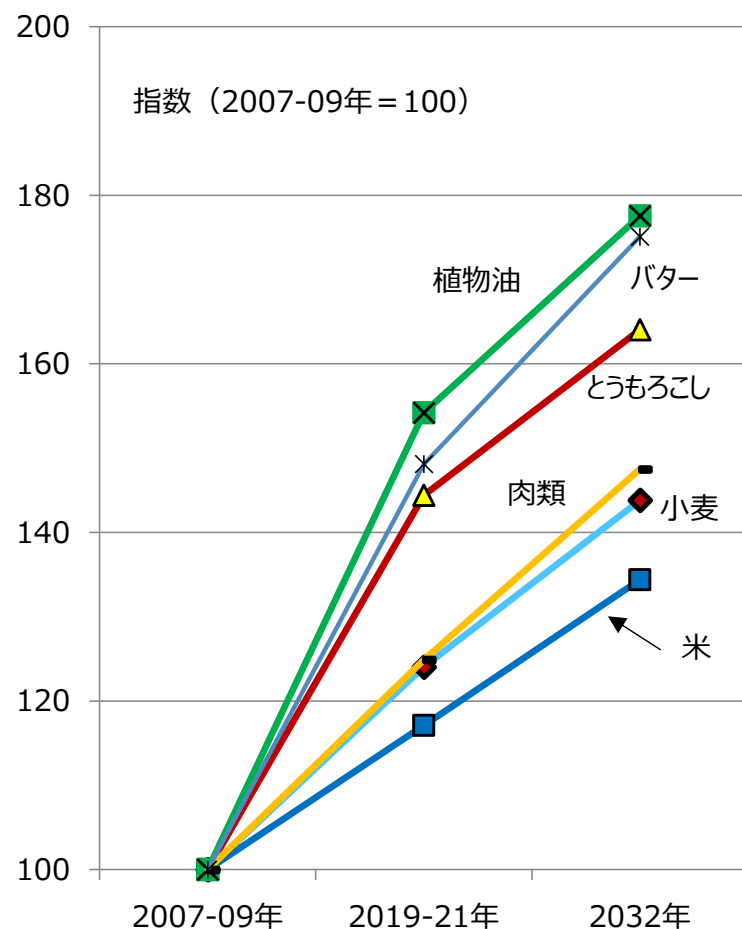
注：2022年までが実績値で、2023年から2032年までは需給データによる予測値。名目値について、小麦、とうもろこし、米、大豆は、製造業輸出価格指数（Export price of manufactures、IMFによるインフレーション指数の一つ）を基に算出。製造業輸出価格指数は、近年の10%を超えるインフレ圧力を踏まえた見通しとなり、名目値と実質値の差が相対的に大きくなる。

資料：2032年における世界の食料需給見通し

1 1 穀物・畜産物等の需給見通し：世界における各品目の消費増加と食料価格

- 2020年からのCOVID-19パンデミックを経た経済回復の途上で、ウクライナ侵攻を受けた不確実性の高まりとインフレ圧力の強まり等を背景に、経済の減速が懸念され、中長期的には中国の人口減少や成長の鈍化が見込まれ、途上国を中心とした所得の向上と人口の増加等による世界の消費量の増加率が鈍化する品目が増える見通し。
- 経済成長やバイオ燃料の伸びの鈍化等によって、穀物の実質価格はマイナスとなる見通し。
大豆、肉類、植物油等の実質価格の伸びはプラスとなるものの、今後、これらの需要の伸びは鈍化する傾向となる。
- 各品目の実質価格の上昇率は、食の嗜好の変化や加工度の違い等によって異なる。

① 主要品目の世界の総消費量の変化



② 各品目の実質価格の増減率に差異

(単位：ドル/t (耕種作物)、ドル/100kg (畜産物))

品 目	基準年 (2019-21年) の価格	2032年 (目標年)	
		実質価格	増減率 (%)
小麦	205	204	-0.4
とうもろこし	198	197	-0.5
米	439	435	-0.9
その他穀物	131	130	-0.8
大豆	394	396	0.4
植物油	882	897	1.8
牛肉	475	480	1.2
豚肉	157	158	0.5
鶏肉	260	267	2.6
バター	482	537	11.3
脱脂粉乳	266	320	20.1
チーズ	401	410	2.4

資料：2032年における世界の食料需給見通し

(参考 1) OECD-FAO、USDAにおける中期的な世界食料需給見通しの概要

- 中長期的な世界食料需給見通しに関しては、各機関が公表しているが、目的の違いにより、それぞれ輸出国の立場や加盟国の農業政策の影響への強い関心等が反映されている。
- 我が国の「世界食料需給モデル」では、国際機関や食料輸出国の予測だけに依存することなく、食料の輸入国の立場から分析を行うという視点に立ち、日本と同様に食料輸入国であるアジア各国の需給分析も強化して、我が国独自の将来の食料需給を自然体で見通し、世界の食料事情の変化に対応した食料戦略の検討等に活用されている。

機関名	公表資料名 (公表年月)	見通しの目的	見通しの概要
経済協力開発機構 (OECD) 及び 国連食糧農業機関 (FAO)	OECD-FAO Agricultural Outlook 2022- 2031 (2022年6月)	各国の農業政策が世界の農産物需給に与える影響について分析することを目的として中期的な世界食料需給見通しを実施	農産物と食品の供給の伸びの一方で、需要の伸びの鈍化により、 <u>今後10年間、ほとんどの農作物の実質価格は現在の水準から下落する見込み</u> 。ただし、世界の農産物市場は様々な不確実性によって価格が変動する可能性。
米国農務省 (USDA)	USDA Agricultural Projections to 2032 (2023年2月)	米国の農業政策コストを予測するとともに、米国の中期的農産物貿易動向を予測するために、米国農産物市場を中心に中期的な食料需給見通しを実施	<u>今後10年間、穀物等の実質価格は現在の水準から下落する見込み</u> 。米国はとうもろこしの輸出量を増加させるものの、大豆の輸出量はほぼ横ばいで推移し、米国の農業は世界の農産物市場において引き続き競争力を有するが、主要輸出国との競争は激化する見込み。

(参考2) 世界食料需給モデルの概要

1 対象品目（合計20品目）

- ① 耕種作物 6 品目（小麦、とうもろこし、米、その他穀物、大豆、その他油糧種子）
- ② 食肉・鶏卵 5 品目（牛肉、豚肉、鶏肉、羊肉、鶏卵）
- ③ 耕種作物の加工品 4 品目（大豆ミール、その他のオイルミール、大豆油、その他の植物油）
- ④ 生乳・乳製品 5 品目（生乳、バター、脱脂粉乳、チーズ、全脂粉乳）

2 目標年次、基準年次、比較年次

- ① 目標年次：2032年（現在から10年後）
- ② 基準年次：2019～2021年の3年平均
- ③ 比較年次：2007～2009年の3年平均

3 予測項目

品目別・地域別の消費量、生産量、純輸出入量及び品目別国際参照価格（実質・名目）

4 対象範囲及び地域分類

- ① 対象範囲：世界全体（全ての国）
- ② 地域分類：
 - i 予測に用いるデータの地域分類は、地理的基準により8地域区分に分類した。
（小分類として31か国・地域に分類）
 - ii 品目毎の需給予測は、基本的にこの8地域区分により示した。
なお、各種パラメータ等について精度を向上させたことから、この8地域区分に加え参考値として品目毎に主要な生産・消費国の需給予測の結果も併せて示した。

(参考 2 : 続き) 世界食料需給モデルの国・地域分類

- 世界全体を対象範囲として、予測に用いるデータの地域分類は、
地理的基準により 8 地域区分
- 小分類として 31 か国・地域
- モデルは世界全体としての食料需給の基調を予測するため、国別での予測は行わず、
8 地域区分の予測値を示す
- 各品目の主要生産・消費国のみを参考値として追記

地域区分	小分類(国名・地域名)
北米	米国、カナダ
中南米	アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、その他中南米
オセアニア	豪州、ニュージーランド
アジア	日本、中国、韓国、タイ、ベトナム、インドネシア、 マレーシア、フィリピン、インド、パキスタン、 バングラデシュ、台湾、 その他アジア（中央アジア含む）
中東	中東
欧州	EU（27か国）＋UK、ロシア、ウクライナ、 その他ヨーロッパ
アフリカ	南アフリカ共和国、ナイジェリア、北アフリカ、 その他アフリカ（サブサハラ・アフリカ）
その他世界	その他世界
合計	31か国・地域

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2023 年 4 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 月報で一番関心／参考にしている項目のうち、特別分析トピックを選択された場合、特に関心があったテーマがあれば教えてください。
- 7 最近で最も興味を引いた／役立った記事は何ですか。（自由記載）
- 8 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
中国の需要・輸入動向
- 9 特別分析トピックで取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
- 10 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）



ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html